

AI特許調査の革新：サマリア（Summaria）の実力と未来展望

2026年、AI特許調査ツール「サマリア」がベンチマーク検証で驚異的な数値を記録しました。
独自の特許技術と実務家のノウハウを融合させることで、従来の調査時間を6分の1に短縮しながら、トップサーチャーに匹敵する精度を実現。
単なる調査ツールを超え、知財管理システムとの連携によるエコシステム構築を目指しています。

人間を凌駕する圧倒的な調査性能



特許検索競技大会の過去問において、
上位100件で85%以上の解読率を達成しました。



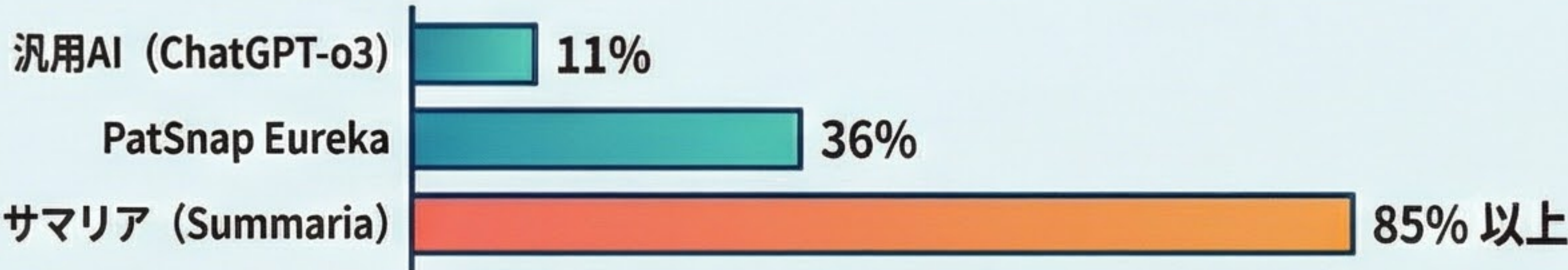
通常の調査



1/6の時間で完了

調査時間を従来の「6分の1」に短縮

汎用AIを圧倒する「特化型AI」の優位性



ツール名	評価指標（再現率/リコール率）	対象データ
サマリア（Summaria）	85% 以上	特許検索競技大会 模範解答
PatSnap Eureka	36%	審査官引用のX文献
汎用AI（ChatGPT-o3）	11%	PatentBench基準

Benchmark Sources: PatentBench, Examiner citations, etc.

高精度を支える技術基盤と連携戦略



全文読込



AI精査



微細な関連抽出

2,000件の「全文」をAIが精査するコンプリートサーチ
要約だけでなく明細書全文を読み込むことで、微細な関連も見逃しません。



12件の独自特許に基づく
ハルシネーション抑制

構造的セグメント抽出など、特許実務に
特化した独自のAI処理フローを確立。



知財エコシステムによる業務フローのシームレス化
「root ipクラウド」等と連携し、管理から判断まで一気通貫で効率化します。